



## 日本湿地学会第6回大会報告

### 1. 学術報告会及び特別シンポジウム

2014年9月6日(土)、北海道大学農学部大講堂にて日本湿地学会第6回大会(辻井達一先生追悼大会)が開催された。学術報告会は口頭発表とポスター発表あわせて20題の報告があり、73名の参加があった。特別シンポジウム「辻井達一とラムサール湿地～北海道発『湿地を!明日へ!』～」(公益財団法人北海道環境財団および北海道ラムサールネットワークと共催)には上記参加者の他、115名の一般参加があり、大盛況となった。懇親会はアサヒビール園で開催した。また、9月7日(日)の大会エクスカージョン「石狩泥炭地での辻井先生の夢の足跡を辿る」には43名が参加した。

### ●第6回大会プログラム

#### ○一般講演

1. 「持続可能な地域発展のための水と農の管理に関する事例研究」黄光偉(上智大学)
2. 「熱帯泥炭地のリアルタイム水文情報による泥炭火災の早期警報」高橋英紀(北海道水文気候研究所)・繁永幸久(みどり工学研究所)・大崎満(北海道大学)・Bambang Setiadi(インドネシア科学技術応用庁)
3. 「熱収支法を利用した水収支の推定」岡田操((株)水工リサーチ)
4. 「排水効果による静狩湿原での水文・土壌・地形・植生の変化」李娥英(北海道大学)・富士田裕子(北海道大学)・井上京(北海道大学)
5. 「湿原環境の破壊と保全－釧路・サロベツ湿原のノンポイント汚染－」橋治国(水圏環境科学研究所)・遠藤勝邦(水圏環境科学研究所)
6. 「宮島沼における早期湛水水田における温室効果気体の動態と中干しの効果の検証」吉田浩平(酪農学園大学)・吉田磨(酪農学園大学)・中谷暢丈(酪農学園大学)・牛山克巳(宮島沼水鳥・湿地センター)
7. 「千歳川遊水地へツルを呼び込むことができるか?」正富宏之・正富欣之((NPO)タンチョウ保護研究グループ)
8. 「タンチョウの冬期自然採食地の創出」原田修(日本野鳥の会)・有田茂生(日本野鳥の会)・竹前朝子(日本野鳥の会)
9. 「宍道湖の水草繁茂の現況について」國井秀伸(島根大学)
10. 「『湧水湿地研究会』による湧水湿地目録作成の取り組み」富田啓介(法政大学)・大畑孝二(日本野鳥の会)・糸魚川淳二(名古屋大学)
11. 「タイキ・フローラ」地元住民が参加した植物調査と植物標本作成 その2」白井隆(湿原研究所)・白井温紀(湿原研究所)・佐々木史江(湿原研究所)
12. 「食を通じた「干潟ベントスの認知度向上」CEPA活動」佐々木美貴(日本国際湿地保全連合)・中川雅博(日本国際湿地保全連合)

#### ○ポスター講演

- P1 「石狩川下流泥炭採取跡地における湿原植生再生モニタリング」坂元直人(エコテック)・渡辺雅裕(国交省北海道開発局)・新庄久尚(エコテック)・笹森健太(エコテック)・矢部和夫(札幌市立大学)
- P2 「石狩川下流幌向地区における湿地再生に向けた取り組み」中島康博(国交省北海道開発局)・矢部和夫(札幌市立大学)・渡辺雅裕(国交省北海道開発局)・小本智幸(ドーコン)・坂元直人(エコテック)
- P3 「携帯電話通信網を利用したSESAME-Xによる湿地水文環境のリモート・リアルタイム観測」繁永幸

久（みどり工学研究所）・高橋英紀（北海道水文気候研究所）・大崎満（北海道大学）・Bambang Setiadi（インドネシア科学技術応用庁）

P4 「北陸地方の水田地帯におけるサギ類の採餌行動について」大河原恭祐（金沢大学）・木村一也（金沢大学）

P5 「フォーリーが採集したヒナミクリ *Sparganium natans* L.（ガマ科）の産地は厚真である」山崎真実（札幌市博物館活動センター）

P6 「外来種トノサマガエルがトゲウオ科魚類の営巣に及ぼす影響」高井孝太郎（東海大学）

P7 「泥炭湿地タンクモデルによる長期表層地下水位変動パターンの評価」何欣（北海道大学）・井上京（北海道大学）

P8 「宮島沼周辺河川における栄養塩収支」古川雄大（酪農学園大学）・吉田磨（酪農学園大学）・中谷暢文（酪農学園大学）

### ●特別シンポジウム

別途紹介

### ●エクスカージョン『石狩泥炭地での辻井先生の夢の足跡を辿る』

訪問先及び講師は以下の通り。

1)平岡公園の人工湿地と外来種問題

矢部和夫（札幌市立大学），澤田拓矢（札幌市公園緑化協会），高井孝太郎（東海大学）

2)幌向地区自然再生事業

矢部和夫（札幌市立大学），濱田暁生（NPO 法人ふらっと南幌），札幌開発建設部

3)当別エコロジカルコミュニティと自然再生

山本幹彦（NPO 法人当別エコロジカルコミュニティ）

4)篠津泥炭地資料館

5)当別地区自然再生事業

札幌開発建設部

### ●大会実行委員

委員長 井上 京（北海道大学）

委員 植村 滋（北海道大学），牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター），内山 到（北海道環境財団），木塚俊和（北海道立総合研究機構），矢崎友嗣（北海道大学），矢部和夫（札幌市立大学），山田浩之（北海道大学）

## 2. 2014 年度理事会

今年度より学会運営の促進のため理事会を年2回開催することとなり，第一回目の理事会を2014年4月12日（土）に法政大学にて，第二回目の理事会を2014年9月5日（金）北海道大学にて開催した。

第一回理事会では，長期滞納者への対応について，理事からも働きかけをする，振込用紙を郵送するなど，自動的に退会とする前に働きかけを強化すること，また，長期滞納者に限らず，会報に振込用紙を同封する，自動引き落としにするなど，会費を納入しやすくすることが提案され，事務局を中心に検討することとなった。また，要望書・意見書の取り扱いについて，個別の案件には学会として関与しないことを確認した上で，要望書・意見書を発行する際の手順について検討した。理事選挙については，今年度中に理事選挙を実施す

ることを念頭に、実施案を笹川企画担当理事、小林総務担当理事、事務局長が作成することを確認した。

第二回理事会では、2013年度事業及び決算報告、2014年度事業計画及び予算案の内容を確認し、2015年度大会の開催地等に関する確認を行った。また、理事選挙の実施案、総会運営の改善策について協議を行った。

### 3. 2014年度総会

2014年9月6日（土）、北海道大学農学部大講堂にて総会が開催された。総会には学会員30名、一般や大会スタッフ5名の（オブザーバー）参加があった。なお、委任状の総数は26名、すべて議長に一任であった。議事の概要は以下の通りである。議長は磯崎博司理事、記録は小林聡史理事が行った。

#### ◇議事1 2013年度事業及び決算報告

牛山事務局長より2013年度事業として、加賀大会とその中でのワイズユース中部ネットワークとの合同シンポ開催、『湿地研究』第4巻の発刊について報告があった。佐々木財務担当理事から映写資料に基づき、2013年度決算報告があった。武者監事より監事を代表して決算の確認について報告があり、承認された。また財政規模に照らして今後は専任の会計担当、決算体制、資産管理の確立が求められるとの指摘がなされた。

#### ◇議事2 2014年度事業計画及び予算案

牛山事務局長より本年度から理事会を年2回実施することが決められたことにより、本年度は4月に最初の理事会を開催したこと、2014年大会の開催、学会理事役員の選挙、『湿地研究』第5巻及び第6巻の発行予定であることが報告された。佐々木財務担当理事より現在の会員数（126名）に基づいた予算案が提案され承認された。

#### ◇議事3 理事選挙について

牛山事務局長よりこれまでの理事会内での議論に基づき、選挙管理委員会の立ち上げ、会員からの理事立候補、推薦を経た上で、「新理事役員選考委員会」による新理事役員の候補者リストを作成し、選挙管理委員会によって信任投票を行うという手続きが提案され、承認された。

次いで、現行理事会による「新理事役員選考委員会」が提案され、最終的に会長、副会長（2名）及び理事複数名を加えて構成することが承認された。

#### ◇議案4 その他

報告案件（1）学会員からの要請に基づき、総会運営の改善、総会資料について今後の方針が報告された。まず、事前に総会資料を公開（1～2ヶ月前）とし、学会ML（メーリングリスト）で議事録を公開、学会ウェブサイトには議事録の概要版のみ公開することとなった。また学会員からの要請により、次回総会からは会場で資料配付も行うこととした。

報告案件（2）2015年度大会はこれまで同様9月の最初の週末に、上智大学（東京四谷）で開催することとなった。

報告案件（3）学会誌の電子ジャーナル化について：学会誌に掲載された内容は最新巻を除き、オンライン公開していく方針が報告された。

報告案件（4）『図説 日本の湿地』の企画が進行中であることが報告された。

報告案件（5）日本学術会議への登録について、会員MLを通じて状況を報告することとなった。